若宮八幡社 社報

金鷹山（きんたかやま）

平成29年（2017）10月1日発刊
通巻第5号

発行所　若宮八幡社社務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地
発行者　宮司　紀田兼宣
電　話　080（5503）3488

若宮八幡社 金鷹山 検索
神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう

一の鳥居竣工祭での一葉

この国の行く末 間も無く終わる「平成」の御代を振り返り

平成二十九年を振り返ってみるに、斯界の最重要事項は「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」が六月九日に成立したことではなかろうか。

一般には「退位」という言葉が使われているが、本来は「譲位」とするべきだが、一部報道関係にしか使われている形跡はない。

いずれにせよ、現行の皇室典範のままでいくと、将来的には皇族は秋篠宮悠仁親王殿下お一人になる恐れがある…との強い危機感を以て議論が取り進められたものであることは間違いない。

過去にも、小泉内閣の折りに議論されたのだが、所謂女性宮家の課題が熟する直前に、悠仁親王殿下のご誕生により、その議論が霧消した経緯があったが、根本的な解決方法がただ引き伸ばされていた感は否めない。

国民にはあまり知られていないことだが、天皇陛下の重要なるお務めとして、皇室宮中祭祀の斎主として神事を奉仕されることが挙げられる。

天皇の御代が替わって最初に斎行される新嘗祭「大嘗祭・だいじょうさい」をはじめとして、様々な皇室祭祀にご奉仕され、皇室の彌榮と我々日本国民の安寧を祈念されていらっしゃる。

「無私」のご存在であられるからこそ、各地の災害には両陛下が行幸啓され、見舞いにもお越し戴くのである。

陛下は常に日本国また国民のことを案じていらっしゃることを我々は感謝して毎日を過ごすべきである。

その陛下が、昨夏に譲位の意向を強く滲ませた「ビデオメッセージ」をご公表になり、以来有識者等で議論を重ねてきたことは国民皆が知るところである。

現行の憲法下での象徴天皇としての最大限のご配慮により、直接は明言されないが、譲位のご意向を示された…。そのメッセージの最後に『国民の理解を得られることを、切に願っています。』と述べられたこの一文にすべてが凝縮されていることを認識しなくてはならないし、今まで国民のために安寧を祈念されて来られた陛下に対し、今度は我々国民がご恩返しをする番ではなかろうか。

祝詞で国民のことを「大御宝・おおみたから」と言う。一億人以上居る日本人は、人生観・宗教観・国家感などそれこそ一億通りあるだろうが、それを超越して陛下の宝物（者）であるとの意味である。

斯界に於いては、統一見解としてこれからの天皇陛下の在り方として、現行通り男系男子に拘る方針であり、当然それを否定はしないが、何故男系なのか、女性宮家とはどういう性質のものなのか…という点をもう少し、国民に分かりやすく説明していく努力をしないと、陛下のおっしゃる「国民の理解」は到底得られることが出来無いのではないか。

「平成」の御代が間も無く終わりを迎えつつあるこの時期、オリンピック・パラリンピックのことを楽しみにすることは、それはそれで良いことなのだが、更にもう一つ視点を加えて、御皇室のこれからの在り方を、他人事と捉えるのではなく、我が事として親身に考えて、日本国の父親であられる天皇陛下、母親であられる皇后陛下に対して、今までのご恩返しを国民の皆さんの総意で考えて行こうではありませんか。

神風が吹いてくれるのをジッと待っていては、いけないと痛感する今日この頃である。

往古を偲ぶ日本三大市「若宮牛馬市」特集
有志による河津桜の植栽

特集として日本三大市として隆昌を極めた「若宮牛馬市」についてご紹介します。

若宮牛馬市の歴史は古く、承安三年（西暦一一七三年）若宮八幡社が中村（現在の中に鎮座する若八幡本社）に御遷座と共に、紀大宮司が中務小輔大納言藤原伊道に、七日間の市を出願、時の国司刑部卿藤原頼輔監督の下にこれを裁許され、爾来八百年以上引き続き盛行せられていました。

牛馬市はこの附属市であり、神仏混淆時代の放生会の御神事が、漸次盛大になったもので、牛馬商の間に当社が牛馬安全の守護神としての特殊の信仰を持つに至ったのも、この伝統によるものと思われます。

古来奥州の白河・山陰の大山と共に日本三大市と言われていましたが、牛馬の生産地でもないこの若宮市が独り八百有余年の歴史をそのままに盛大に行われて来たことは洵に意義深いことであるといえましょう。

出場の牛馬は近く九州一円から、遠く北海道にまで及び、戦前の如き出場二千余頭を数え、各種の牛馬が好みに応じて買い易い特徴があり、商人は関西地方からも多数殺到、この数日間の取引額は当時でも数千万円にも及び正にこの市が歴史的に大切な文化財であると同時に、当地方の産業また経済上も重要な役割を持っていたことは見逃せず、近い将来当時と近い形での牛馬市の復興が待たれるところであります。

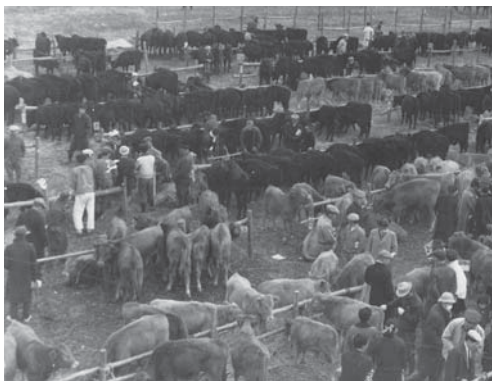
牛馬市が開かれていた場所は、現在でも若宮八幡社の境内地として残されており、牛馬市の名残りを留める物として「獣魂碑」が建立されており、その近辺の大木は今般、若宮八幡社と地元宮司区との協同作業で伐採が行われ、若宮八幡社の境内から住吉浜が遥かに見渡せるようになり、また毎週日曜日ごとには、近隣の皆様方がゲートボールやグラウンドゴルフなどに興じて居られます。

皆様方の楽しむお姿をご覧になり、若宮八幡社の神様はお喜びのことと存じます。

十二月の例大祭には、御旅所が設営され、若宮八幡社の神輿が一晩お泊りになられます。昔は牛馬市のほかにもサーカスや色々な娯楽施設があって、杵築市民はもとより市外からも多数の方々がお越しになりましたが、現在はその情景を垣間見ることは叶わず、少しでも多くの方々にお越し戴くよう祈念するばかりです。

御旅所までの参道両脇添いに、昨年有志の方々による河津桜の植栽が行われました。津久見市や遥か静岡県の河津桜のような見どころを造ろうと、毎年数千本を杵築市内に植栽していく計画だそうです。

五年後には花が咲くようで、若宮八幡社としては植栽元年に、境内地が選ばれたことに篤く感謝申し上げますと共に、これを機会に牛馬市の復興の糸口となればと考えております。


昔懐かしい牛馬市の模様

牛馬を偲ぶ獣魂碑

御旅所周辺に植栽された河津桜

【遷座・せんざ】

神様が鎮座される場所をご移動になることです。本殿を新しくする場合などは、神様を一旦、仮殿(仮の御本殿)にお遷しし、建物を普請致し、竣工の後に本殿遷座祭を斎行して、神様を本来の本殿にお遷り戴きます。

【放生会・ほうじょうえ】

宇佐神宮や京都の石清水八幡宮で斎行される神事で、その名の通り、殺生したことを踏まえ、鎮魂の意味も込めて蜷貝や生き物を放生池に放ちます。

将来、若宮八幡社御鎮座一〇五〇年祭の記念事業として、「若宮八幡社誌」を編纂致します。牛馬市をはじめ若宮八幡社の古い写真をお持ちの方は是非ともご連絡下さい。

末社　和漢将軍社の由緒ご紹介
紀貫之と和漢朗詠集そして和魂漢才

若宮八幡社の境内に鎮座される末社(まっしゃ)「和漢将軍社」をご紹介します。

和漢将軍社は、木付初代藩主木付親重公(西暦　一二二五～一二八五年)の霊廟です。

木付親重公は和漢（日本や中国)の史実に詳しく、嘗て鎌倉に於いて鎌倉幕府第六代将軍宗尊親王に近侍しておりました処、偶々和漢の英雄の話に及び、その時親重公は具に史実を申し上げました。

親王は大いに感嘆され、『博覧強記よろしく和漢将軍と称すべし』とのお言葉を戴き、以後和漢将軍と呼ばれるようになりました。その親重公を称え御霊を祀ったのが和漢将軍社です。

若宮八幡社では、年間様々な神事が斎行されておりますが、御本殿での神事の後、かならず末社和漢将軍社にも役員総代一同が参拝し、杵築の偉大なる先人に対して敬意を表しております。

「和漢」といえば、「和漢朗詠集」が思い当たります。

和漢朗詠集とは、平安時代、藤原公任が朗詠に適した漢詩句と和歌八百余首を選りすぐり、編纂したものです。紀田家の家系図にも出てくる紀貫之も朗詠を残されております。

また「和魂漢才」という言葉もあります。

「和魂」とは日本民族特有の精神のこと、「漢才」とは中国伝来の知識や学問のことを言い、日本固有の精神を以て中国の学問を吸収・消化することを意味しており、今の国際社会に通じた学問の根本理念であると言えましょう。

とかく政治の世界では、日中間で領土問題や外交などで様々な軋轢が、戦後七十年以上を経た現在でも残っております。

雅楽や学問・伝統文化では交流があるので、本当の意味での日中友好化が喫緊の課題だと思われます。

末社　和漢将軍社

春の「御田植祭」秋の「楽の市」斎行について
大分県無形民俗文化財を守り伝える

御田植祭は、毎年四月六日（固定日)に斎行される神事です。

午前は神前に於いて春季大祭が斎行され、若宮八幡社の神様に秋の稔りが多いことをお願いします。

午後二時から社殿前の斎庭に於いて、御田植祭が斎行されます。

神職や早乙女をはじめとする色々な所役を氏子さんが一所懸命に奉仕されます。(平成十二年三月二十四日大分県無形民俗文化財に指定)

楽の市は、毎年九月中旬の日曜日に斎行される神事です。

午前は神前に於いて仲秋祭が斎行され、午後二時から社殿前の斎庭で、楽の市が斎行されます。

本来は、元宮である京都石清水八幡宮の例大祭九月十五日（昔の敬老の日）に斎行されておりましたが、子供さんの奉仕の関係で、九月中旬の日曜日とさせて戴いております。(昭和四十一年三月二十二日大分県無形民俗文化財に指定)

それぞれ保存会があり、両会長様が保存会の伝統を守るために粉骨砕身の努力をされておりますが、子供さんの奉仕者が少ないことから、宮司区にも奉仕の子供さんを募るようにもなり、神事の運営にも苦慮しておる処であります。

氏子崇敬者の皆様方も、この伝統ある県無形文化財の神事をご理解戴き、更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大分県無形民俗文化財　御田植祭

大分県無形民俗文化財　楽の市

オレンジ道路入口・開通記念碑公園に神社誘導看板を設置

若宮八幡社境内を離れた場所での施設について報告事項があります。

宮司交差点（オレンジ道路）入口、開通記念碑公園の一角に、若宮八幡社の誘導看板を建立しました。

イラストにありますように、3方向から識別できるように設計し、少しでも若宮八幡社へのアクセスが判るようにとの意匠で作製しました。

神社へは交差点から車で約1分要し、初めての方には判りにくいとのご指摘もあり、この度誘導看板を1基建立した次第であります。

看板というのは、その施設の顔でもあります。これから、初宮詣や七五三をはじめ、正月初詣の方々をお迎えし、気持ちよくお帰り戴く道標として、末永く皆様方に愛される存在であり続けていきたいと思います。

車でこの看板を横目に見乍ら運転され、若宮八幡社のことを崇敬戴きますよう祈念すると共に、氏子崇敬者の皆様方の交通安全や家内安全・健康などを希うばかりであります。

オレンジ道路入口に立つ看板

看板イラスト

門熙前総代事績表彰
大分県神社庁国民精神昂揚研修会にて伝達さる

永らく若宮八幡社の総代をお勤め戴きました門熙様が、この度大分県神社庁事績表彰の栄に浴され、去る九月二十七日別府湾ロイヤルホテルでの「大分県神社庁国民精神昂揚研修会」で表彰の伝達が行われました。

門熙様は平成十九年四月から平成二十九年三月までの十年間若宮八幡社の会計総代として奉仕を戴き、また令夫人様も神事ごとに賄いや甘酒造りなどの奉仕に勤しまれ、ご夫婦お揃いで崇敬の念篤く、また在任中には御鎮座壱千参拾年という佳年の記念事業に於いても、会計として尽力され、見事に事業完遂を見ましたのも、これ偏に門ご夫婦のお蔭であると深謝申し上げる次第です。

総代職を退任されたとはいえ、これからも若宮八幡社のことを護持戴き、御家益々家内安全また家業も愈々商売繁盛でありますよう祈念申し上げ、表彰のご報告を行いました。

感謝状

あなたは平素から敬神の念極めて篤く
若宮八幡社の御鎮座壱千参拾年祭等に当たり大なる貢献
御神徳の宣揚に格別寄与されましたことは誠に奇特の至りであります
茲に深く感謝の意を表します

平成二十九年 九月二十日
大分県神社庁長 神日出男

門熙 殿

大分県神社庁長からの感謝状

若宮八幡社 社殿内の調度品奉納を承ります

氏子崇敬者の篤志を戴き、お蔭様をもちまして平成二十七年度には若宮八幡社御鎮座壱千参拾年奉祝記念事業も無事に完遂し、境内諸建物が綺麗に整いました。ともあれ、社頭拝殿内のお飾りや調度品については、まだまだ取り揃えが完了したとは言い難い状態であります。

より清浄なる神域を醸し出すとの趣旨にて、殿内のお飾り調度品を奉賛戴ける方々を広く募ります。

〈若宮八幡社　調度品募集要項〉

①調度品の種類

A／床置き型　雪洞（ぼんぼり）

B／壁掛け型　灯籠（とうろう）

②奉納金額

A・B共に一対（2台）　金三十万円にてお申込み戴けます

③接遇ほか

奉納者名を調度品及び若宮八幡社社報「金鷹山」に掲示して顕彰

奉納奉告祭を斎行し神様にご奉告致します

※若宮八幡社の社頭でお申込み一式書類をお頒ちしております

お電話下されば説明に伺います

（紀田宮司携帯080・5503・3488）

壁灯籠の写真

雪洞の写真

勤労を感謝して新嘗祭斎行
斗初穂奉納の勧奨についてご紹介

秋の稔り多きことを若宮八幡社に感謝ご奉告する神事が新嘗祭（にいなめさい）です。

日本書紀に記載される三大神勅とは、瓊瓊杵尊が地上界に降り立つ（天孫降臨）際に、天照大御神が教え諭したお言葉で、

●宝祚無窮の神勅

瑞穂の国は天照大御神のご子孫が統治していきなさい

●同床共殿の神勅

三種の神器を天照大御神として大切にお祀りしなさい

●斎庭稲穂の神勅

高天原で神々に捧げる神聖な稲穂を与えるので地上界で主食として国民を養いなさい

とのお言葉により、我が国の主食はお米とされ、爾来日本国民は大切に育て守り伝えて来ました。

そのことに感謝申し上げるのが新嘗祭です。

間も無くその時期を迎える、天皇陛下のご譲位により平成の世が改まり、次の天皇陛下の御代最初に斎行されるのが大嘗祭です。

我々日本国民は、万世一系の御皇室を戴く大御宝としてそのことに深く感謝を申し上げ、日々のご飯や肉野菜果物などの食物を有難く頂戴したいものです。

参道両脇の斗初穂石碑

若宮八幡社信仰の一つとして、氏子さん方はお初穂のお供えをして参りました。

若宮八幡社では、お米一斗のお初穂を十年間続けて奉納戴いた方には石碑を参道や境内に建て、その志を永く顕彰して参りました。

杵築市内の多くの先人の方々が、既に斗初穂の納付が終了し（平成二十八年度は二十五名）、その石碑が建てられております。

初めての方は勿論のこと、納付終了の方でも、お子様やお孫様のためにもご参加を戴き、若宮八幡社のご加護を享けられますよう奉納方何卒よろしくお願い申し上げます。

現在では、お米一斗を初穂料三千円に置き替え、その一年度（三千円）に十年間を乗じた三万円で納付完了となっておりますが、最近では、十年を待たずに一括または短期間での納付の希望をされる方も増えていらっしゃいます。

斗初穂の浄財は、斗初穂特別会計で経理し、平成二十七年度の御鎮座壱千参拾年祭に係わる社殿の修復費等に四百萬円、また平成二十八年度は神楽殿屋根瓦修復費に百万円など、若宮八幡社の護持の為の大きな修繕や特別な出費に活用させて戴いたところであります。

この斗初穂納付につきましては、杵築市外の方でも自由にご参加戴けますので、この主旨をご賢察戴き、多数のお申込みを賜りますよう紙面をお借りして斗初穂承りのご紹介をさせて戴きました。

斗初穂担当総代
本多泰久・井上剛まで

平成三十年戊戌も間も無く　行く年来る年　年末年始神事のご紹介

紙面をお借りして年末年始の神事をご紹介致します。

●十一月二十五日(土)
若宮八幡社新嘗祭
(詳細は3頁)
秋の稔り多きことを若宮八幡社の神様に感謝申し上げる神事です。

●十二月一日(金)
若八幡本社例大祭(中区)
この地から嘉暦元年(西暦1326年)に、若宮八幡社は今の金鷹山に遷座され、現在に至ります。

●十二月二日(土)
天満社冬祭(大内区)
大片平若宮八幡社冬祭(大片平区)
船部若宮八幡社冬祭(船部区)
紀田宮司が宮司職を兼ねている神社の冬祭です。

●十二月二日(土)・三日(日)
若宮八幡社例大祭
若宮八幡社の年に一度の最重儀とされる神事です。神社本庁からの幣帛料を奉り、神輿が御旅所に巡幸され一泊し、その間、境内には露天商が立ち並び、多数の参詣者で賑わいます。

●十二月十日(日)
八坂神社冬祭(鴨川区)
浜田社祭(下司区)
紀田宮司が宮司職を兼ねている神社の神事です。
浜田社は、若宮八幡社の元宮で、寛和元年(西暦985年)に京都石清水八幡宮の四柱の神様を奉戴し、現在の地に鎮座されました。

●十二月二十四日(日)
鴨川八幡社祭(鴨川区)
紀田宮司が宮司職を兼ねている神社の神事です。

●十二月三十一日(日)
年越大祓・除夜祭
平成二十九年の一年間で知らないうちに積み重ねた罪や穢れを人形(ひとがた)に託し、清々しく平成三十年正月をお迎え戴きます。

●平成三十年一月一日(月)
若宮八幡社歳旦祭
(さいたんさい)
平成三十年新年を寿ぎ、御皇室の彌榮また五穀豊穣・国家安泰そして氏子崇敬者の皆様方の一年間の安寧を祈念申し上げます。
三が日を中心に新年初祈願を承ります。(家内安全・健康祈願・厄除開運招福・交通安全・などなど)
お気軽にお問い合わせ下さい。
紀田宮司携帯
080・5503・3488

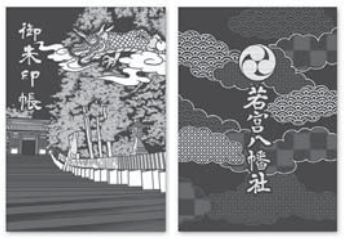
例大祭お上りの模様

例大祭御旅所での御神楽

初詣ポスター

社頭にある納札箱

年越大祓　人形と車形



金鷹山若宮八幡社特製　朱印帳

紀田宮司奉仕出向　事業報告

一月　一日　歳旦祭
　　三が日　初詣祈願祭奉仕
一月　九日　成人祭(朝御饌祭)
一月十四日　ソフトバンクホークス内川選手激励(於 別府市民球場)
一月二八日　正月慰労会(若栄屋)
二月　三日　節分祭(朝御饌祭)
二月十一日　紀元祭(朝御饌祭)
二月二六日　八坂神社春祭
三月十八日　大片平若宮八幡社祭
三月十九日　船部若宮八幡社祭
三月二十日　春季祖霊祭・神事後祖霊開運講年度総会
三月三一日　速見支部総会(於 奈多宮)
四月　二日　宮司区花見会
四月　三日　神武天皇祭(朝御饌祭)
　　若八幡本社春季大祭
四月　六日　春季大祭・御田植祭
五月　三日　阿部武彦様通夜参弔
五月　四日　阿部武彦様葬儀参弔
五月十三日　評議員会
五月二一日　神明社祭
五月三一日　速見支部研修旅行(臼杵市八坂神社ほか)
六月　十日　宮司区老人会講演
六月十四日　玖珠町嵐山瀧神社
　　主基地方風俗舞奉仕
六月二五日　若八幡本社根付籠祭
七月　二日　大内天満社根付籠祭
　　鴨川区根付籠祈願祭
七月二四日　大内山半夏生水神祭
八月十四日　宮司区盆踊り
八月十五日　中元祭(朝御饌祭)
八月二六日　速見支部神職会
九月　十日　仲秋祭・楽の市
九月二三日　秋季祖霊祭
九月二四日　若八幡本社御願成就
九月二七日　国民精神昂揚研修会(別府 二十八日まで)
十月　一日　貴布禰社祭
十月二一日　若八幡本社秋季大祭
十一月　三日　明治祭(朝御饌祭)
十一月二五日　新嘗祭
十二月　一日　若八幡本社例大祭
　　前夜祭
十二月　二日　例大祭(初日)
　　大内天満社冬祭
　　大片平若宮八幡社祭
　　船部若宮八幡社祭
十二月　三日　例大祭(2日目)
十二月　十日　八坂神社冬祭
　　浜田社祭
　　鴨川八幡社祭
十二月二四日　年越大祓・除夜祭
十二月三一日　大内天満社除夜祭

総代　阿部武彦翁急逝のご報告

永らく金鷹山若宮八幡社の総代職と地元大片平若宮八幡社の責任役員職を奉仕戴いておりました阿部武彦様が平成二十九年五月不慮の事故にて急逝されました。
阿部武彦様は大手企業を退職の後、生まれ故郷である大片平区に戻られ、地域活動に邁進される傍ら、神社総代をはじめ様々な要職に就かれ、地域社会に貢献をされており、まだ七〇代という若さゆえまだまだご奉仕を戴けるものと懇請しておりました矢先での訃報であり、洵に残念でなりません。
亡くなる直前までお元気なお姿を拝見しておりましたので、総代一同大変驚いておりました。
宮司以下責任役員総代又ご関係者葬儀に参弔し、阿部武彦様の在りし日の人柄とご功績に感謝申し上げると共に、謹んで哀悼の意を表する次第にございました。
これからも高天原からご遺族様を見守ると共に、地域の発展興隆を後押し戴きますよう祈念致します。

編集後記

紀田宮司のつぶやき

社報「金鷹山」もお蔭様で第5号を迎えるまでになりました。
これ偏に氏子崇敬者の皆様方の篤志の賜物であると感謝申し上げます。間も無く「平成」が終わりとなります。平成三十年は六郷満山が開山されてから丁度千三百年という佳年にもあたります。地元に伝わる歴史と文化を後世に末永く伝承していく責務を今この時代に生きる全ての国民が負っているのです。(宣記)